

令和6年3月18日

静岡大成中学校第20回卒業証書授与式 学校長式辞

ようやく、春の足音が聞こえて来る季節となりました。

本日、静岡大成中学校、第20回卒業証書授与式が挙行できましたことを、大変うれしく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。入学して間もない、小学校を卒業したばかりのわが子を、朝から夜まで学校に預けることはさぞ不安だったことでしょう。それから今日まで、陰になり日向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえってきていることとお察しいたします。この3年間、本校の教育方針に、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

48名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。みなさんが小学校6年生になる直前に、新型コロナウイルス感染の流行によって、日常の学校生活が一転し、不安や心配の中で毎日を送ったことと思います。中学に入っても、次々と流行の波が押し寄せ、小学校から中学校へと大きく環境が変わり、学校に慣れて、新しい友達を作る大切な時期に、授業、部活動、行事などに多くの制約を受け、残念な思いをしたことでしょう。マスク生活で、友達の顔を覚えることや、相手の表情をくみ取ることなどにも苦労したと思います。私は、皆さんがそのような逆境を乗り越え、一回りも二回りも大きく成長し、今日こうして卒業式を迎えることができたことは、大変意味のあることだと思います。コロナ禍を乗り越えた経験を貴重な財産として、自信をもってこれからの人生を送ってほしいと思います。

来月から高校生となる皆さんに、私からお願いしたいことがあります。この1年私が皆さんに言ってきた3つのコンピテンシー、「自律」「対話」「行動」を、これからの高校生活を送るうえでの指針として、持ち続けてほしいということです。大成中学では、

朝学習やスリーライトクラスといった、学習する場や時間が与えられ、たくさんの宿題をこなしてきたと思いますが、高校では、自分で学習する時間を作り、学習する場を設け、学習する内容を決めることになります。与えられるのではなく、自分で考え、自分で決め、自分の行動に責任を持つことが「自律」です。

また、新しい環境になると、新しい仲間との出会いがあります。仲間との良い関係づくりも重要となってきますが、それは決して難しいことではありません。自分の考えを相手に伝える、あるいは理解してもらうには、相手の考えを聞く、そして理解することが大事だと思います。それが「対話」です。「対話」によって相手の考えを知って理解すること、そして相手を尊重することが、良い友人関係を築く第一歩だと思います。

そして、自分たちの学校を、自分たちでより良い学校にしていくために「行動」しましょう。学校はいわば生徒が暮らす社会です。自分たちが暮らす社会が、自分たちにとってより良いものであれば、勉強も、部活動も、友人関係も、きっと充実したものになるでしょう。今日本の社会は、さまざまな問題を抱えています。政治、経済、環境、そして危機的な人口減少など、挙げればきりがありません。私は、皆さんに「自分たちで解決する」という気持ちを持ってほしいと思っています。「誰かがやってくれるだろう」という考えが、今の社会を作ってしまったと思うからです。ですから、政治や経済、環境や人口問題のことを考えてみてください。周りの友達や家族と話し合ってみてください。皆さんは、高校を卒業すれば「成人」となり、社会の一員となります。私は、皆さんが中心となって「行動」することによって、より良い学校を創り、より良い社会を創ってほしい、と願っています。

では、卒業生のみなさんのますますのご活躍を祈願し、式辞といたします。

令和6年3月18日

静岡大成中学校 校長 山田 隆司